

参加者;

秋元、伊藤、北島、田中、
土田、中島、町田、安田、
山岡、吉野、

BMW RS Club

かわらばん

Oct 14~15, '06

錦秋を求める磐梯山から
奥州三高湯白布温泉へ

かわらばん; 中島邦雄 挿絵; 小倉玲子

10/14-15

磐越自動車道の「磐梯河東IC」を降りると、眼前に大小二つの頂きを持つ磐梯山がそびえ立ち、道路沿いの木々が色づき始めていました。晴天の山道を上るほどに周囲の景色は秋色に変わり、真っ青な桧原湖には湖を囲む山々の見事な紅葉が、その姿を水面に映していました。錦秋とはこんな感じの秋の日々を言うのでしょうか。

昔々、白い斑の有る両目の腫れた大鷹が、その湯に浸かると瞬時に平癒して飛び去ったのを見て「白斑の鷹湯」と命名されたと言う奥州三高湯の一つ「白布(白斑)温泉」へと向かいました。紅葉の時期に見事な晴天にも恵まれ、最高の一日の始まりです。

長く厳しかった夏が過ぎ待望の秋の恒例一泊ツーリングが催行されました。晴天という予報ながら早朝の首都高速に入ると雲が厚く気温も低い中を、集合地の東北道「佐野PA」に向かいました。八時集合という早い時間帯で集合場所がやや遠い為か、八時半の出発時間になども集まりが悪く、遅れている吉野さんの携帯に集合地のメッセージを入れ、7台で「那須高原SA」へ向けて出発しました。道路わきの気温計は16度を示し、走りだすとやや肌寒い感じでした。

「智恵子抄」の中で“あれが安達太良こっちが阿武隈だよ”と光太郎が神経をおかされた智恵子に言った、その阿武隈川にかかると、急に空が明るくなり気温が19度に上がりました。静かな中でエンジン音と風を切る音だけが聞こえています。

近頃はETC装着車が多く8時までに高速道に入り、100キロ以内で一度降りると料金が半額になるという「通勤割引」を使おうと、町田さん以外は「鹿沼IC」で一度降りて料金所を抜け、Uターンをして再び郡山方面へ向かう手筈となりました。

「鹿沼」で降りるとUターンをした田中、安田の両氏が戻って行きます。私も同じように戻り当然のように左方向に走り始めました。此処はグルリと一回りしてから高速に入る設計なのに、サインを確認しなかった私が間抜けで、他のバイクと抜きつ抜かれつし、フット気が付くと路程標識が段々と減り始め、恐いかに東京方面の標識が出て逆走しているではありませんか。

後で聞くと田中さんも間違えそうになり、前を行く安田さんに付いて行き事なきを得たそうですが、何ともお粗末な恥ずかしい話です。途中から電話を入れて言い訳をし他の人より50キロも余分に走り、メンバーを待たせてヤット「那須高原SA」に到着しました。遅れて来た吉野さんも既に到着し、最長老の町田さんがニヤニヤしながら「中島さんもボケ症状が出てきたんじゃないの?」と言っていました。何を言われても一言の弁明も出来ず、余りの馬鹿らしさに私自身が自己嫌悪に陥りました。

再度出発し郡山からガラガラの磐越道を快調に飛ばして「磐梯山SA」に終結し、少し先の「磐梯河東IC」で高速を降りると、前述のように磐梯山のお迎えを受けました。此処から昼飯に喜多方へ向かって走ると、やがて蔵造りの家並みが見えてきました。田舎と言う感じの細い裏道に入り、市役所前にずらりと並ぶ他のバイクと一緒に我々も停め、百件余りも有ると言うラーメン屋の中から秋元さん推薦の店(ばんない)へ行くと、丁度12時で未だ待ち人も少なく、10分ばかり並んで座敷に上がりました。ラーメン屋と言うより天井の低い古いしもた家風の店にはぎっしりと客が入り、スープは澄んだ薄色ながらやや塩気の強い味で、太麺にたっぷりとチャーシューが乗っています。我々が外に出た時にはもう大勢の客が並んでいました。町田さんは此処の味にいたく感じ入り、「ああカーチャンにも食べさせたいよ」と1万円以上も土産を買い自宅に発送をしたそうです。通りには蔵造り風に造られた馬車が、観光客を乗せゆったりと歩いていました。のどかな昼下がりです。

山を上り始めると周囲の木々が段々と色づき、華やいだ感じに変わり始めました。福島と山形の県境にある白布峠に着くと、クリスマスの包装用紙に包まれたような感じになりました。どうも今年は赤が少ないとしたら、前の週の大雨と風で赤く変わったヌルデやウルシ、そしてハゼ等の木々の葉が落ちてしまったというのが心残りでした。確かに木々に巻き付いたツタウルシや背丈の低いハゼ等が残っているだけでした。しかし磐梯山としてはセピア色の多い今年の紅葉もそれなりに見事でした。白布に向かって山を下ると紅葉のポイントごとに大勢の人が車を停め、盛んにカメラを構えていました。

そして四時前に藁葺き屋根の「西屋」に到着です。以前に此処のすぐ近くから日本百名山の一つ「西吾妻山」に登った事がありますが、その時には確かに古い造りの何軒かの宿屋が焼け、「西屋」の隣も焼け跡には石の土台だけが残っていました。昔の古い建物ですから火が出たらたまらないでしょう。「西屋」でもタバコも決められた場所だけでの喫煙となっていました。部屋に入ると早速に例のごとく安田さん持参の「越の寒梅」の封が切られ、散々ご迷惑をかけたお詫びと口止め料に(?)私が地酒を一本調達してきました。そして名湯と言われる温泉に入ると上方から滝湯が音を立てて落ち、豊富な熱い湯が浴槽から溢れています。「熱い!」と悲鳴を上げる人も居ましたが、つま先が痺れるような熱湯好きの私にはこたえられない温泉でした。

部屋で一杯やっているところへ怪我からほぼ復帰の北島さんと土屋さんが車で到着し、参加者十人が勢揃いしました。

「ご準備が出来ました」という女中さんの声が掛かり、

床暖房の効いた廊下を食堂へ。さあお待ちかね

宴会の始まりです。「挨拶は短かくね」と言わ

れて町田さんの音頭取りで乾杯。太い串に

刺して焼き上げたイワナにかぶりつい

ていると、オプションの見事な霜降

りの米沢牛の大皿が登場。早速に

シャブシャブとスキ焼きが始まりました。

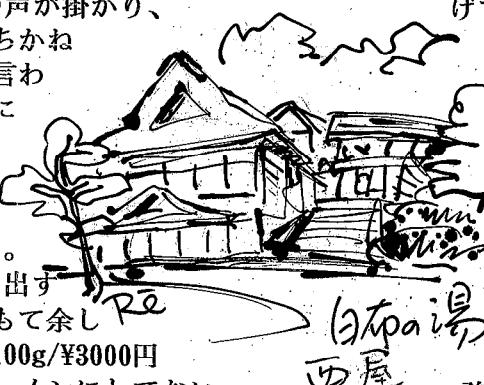
向かいのテーブルに居たグループが乗り出す

ように我々の席を眺めていました。ややもて余し

気味に肉を平らげましたが、当初の昼に100g/¥3000円

のステーキを200g食べるという話を、ラーメンにしておい

て本当に良かったと思いました。たっぷりと食べ再度風呂に



入り直し大きな部屋に戻って二次会が始まりましたが、誰もが疲れたらしく、当クラブには珍しく、早々に切り上げて床に就きました。さすがに標高900メートルで深々と冷えて来るのが分かります。外を見ると、澄んだ空気の中に煌々と星が輝いて明日の晴天を約束するかのようでした。早く寝たので夜中に起きたメンバーが外の喫煙場所でビールを飲み再び温泉に入ったとか。最長老の町田さんも一緒だったそうで彼のように何時迄も元気でいたいと心より思いました。翌日は7時半から食事をし玄関に整列して写真を撮り、やや冷え込みの強い中を見送られて出発。帰途に就きました。見納めの紅葉の中を走り秋元湖から磐梯熱海へ一直線。

磐梯熱海でガス補給をしてから、近くの蕎麦屋に入りました。此処まで来て昨日から発電をしなくなっていた安田さんのバイクがついに動かなくなり、早速道具を広げて私のバイクのバッテリーと積み替えました。ところが今度は押し掛けでも私のエンジンがかからず、車で来た土田さんが持っていたブースターを繋いでエンジンをかけ事なきを得ました。お婆さんが一生懸命にこね上げた蕎麦は腰も強く味も上々で、何か得をした気分になりました。此処から東北道の「上河内SA」までノンストップで走り一休みの後で解散となりました。素晴らしい天気にも恵まれ、これ以上ないような二日間でした。一時に磐梯熱海を出発し計700キロ程を走り三時半に無事文京区の自宅に帰着しました。

今回の幹事役の秋元さん本当にご苦労様でした。最高のツーリングでした。参加者になり代わり心より御礼申し上げます。